

特集

オリンピックイヤー到来
はばたけ！
未来のトップアスリート。

今年は、オリンピックイヤーで活躍されます。「スポーツの日」からスポーツに取り組む。今回の特集を見せたいと紹介します。

【空手】

今 勇絆くん 日本空手協会北方支部 東小3年

(全日本少年少女空手道選手権大会) 形の部(小学校3年生男子) 3位

張りつめた道場に、道着が空を割く音が響き渡ります。やってきたのは、興文中学校の柔剣道場。ここで汗を流しているのが、今勇絆くんです。

昨年8月に開催された「全日本少年少女空手道選手権大会」において、「形の部(小学校3年生男子)」で3位という成績をあげた今くん。お父さん、お母さんがともに空手の選手で、幼いころから道場に遊びに行っていたことがきっかけで、6才から本格的に空手を始めました。



空手のどんなところが魅力かという問いに、満面の笑みで「全部！」と答えてくれるほど、空手が大好きです。特に、

新しい「形」を覚えることができた瞬間が嬉しいのだそう。

そんな今くんが、得意の「形」で勝負した今年の大会。全国で3位という輝かしい成績を収めたにも関わらず、「優勝を狙っていただけに、本当に悔しくて涙が出た」というのですから驚きます。それもそのはず、前回大会でも3位だったことから、さらに上を目指し、真剣に空手と向き合ってきたからです。

その真剣な姿勢は、練習でも垣間見ることができました。練習が始まると、あどけない表情が一変。鋭いまなざしと力強い掛け声で「静」と「動」の動きを繰り返す姿は、小さいながらも、立派なアスリートの姿でした。

今後の目標は、「全日本



少年少女空手道選手権大会で優勝して、その次は世界に挑戦できるような選手になること」と、大きな夢を教えてくださいました。

現在、東京オリンピックでの追加種目最終候補に提案されることが決まっている空手。「正式種目に決まったら、跳び上がるほど嬉しい」と、今くんも期待を寄せています。五輪の正式種目になった際には、「いつか金メダルを獲りたい」と、輝いた目で語る様子がとても印象的でした。



VOICE



日本空手協会北方支部 今 亮子さん

家庭では母として、道場では指導者として、子どもを見守っています。最近まで、「全国大会って何？」と言っていたような子が、ここまで成長してくれました。

気持ちのオンとオフが激しく、普段の生活ではやんちゃな所もありますが、練習や試合になると決して手を抜かずに集中するという姿勢を褒めてあげたいです。このような気持ちの切り替え方は、空手を始めた影響だと思えます。

幸い、この子の周りには目標とする選手がいますので、恵まれた環境であるということを感じ、これからもさらに精進してほしいと願っています。

【自転車】

平尾 愛菜さん MINOURA大垣レーシング 星和中3年

(JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技) 女子U-17ポイントレース 1位

大 垣競輪場のバンクを白い車体がさっそうと走り抜けて行きます。それにまたがるのは、平尾愛菜さん。昨年の「JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会」において、女子U-17ポイントレース1位の栄冠に輝いたジュニアアスリートです。

平尾さんは、自転車競技をやっていたお父さんの影響で、小学5年生から自転車を始めました。中学3年生の現在では、所属しているクラブチームの大人に交じって競輪場や公道を走り、日夜、腕ならぬ脚を磨いています。

「このスポーツの好きなところは何と言ってもスピード感。また、競争相手がいる場合は仕掛けのタイミングを予測するのも醍醐味」と、競技の魅力を語ってくれた平尾さん。「まだまだこれからです」とは言うものの、やはりスピードには自信をのぞかせます。

一方、自分が苦手としているところもしっかりと把握しており、「短距離を走

る種目で大事(スタート時の)と鍛えていアスリートらせてくれました。ジュニアトップに出場し尋ねると、「緊走っているうった」のだそ臓ぶりには舌そんな平尾「練習はきついには大人と一もの距離を自うな過酷な練とか。それでられるのは、

VOICE



MINOURA大垣レーシング 平尾 貴之さん

父である私の影響で、会で結果が出始めてかているように見えます。本人の努力はもちろで、全国で戦える力を、基礎の部分で習得れから高校に入学して、内気な性格ですので、遠慮がちです。交流を、今後はコミュニケ